

2021年度 同志社大学大学院 司法研究科

前期日程入学試験問題 法律科目試験

(民法)

次の(設例)を読んで、問(1)から(3)に答えなさい。

(設例1)

1. Aは、B(当時35歳)の父親Cとの間で、B所有の甲土地を購入する契約を締結した(以下「本件売買契約」という。)
2. 本件売買契約を締結する際、Cは、Bの委任状をAに呈示したが、この委任状は、CがBの実印をBに無断で持ち出して作成したものであった。
3. Aは、CによるBの委任状の偽造については全く知らなかったし、知ることもできなかった。また、Bも、CがBに無断で本件売買契約を締結したことは知らなかったし、甲土地に関する管理等をCに依頼したこともなかった。

問(1)(配点:20点)

Aが、Bに対して代金と引換えに甲土地の引渡しと所有権移転登記を請求した場合、Aの請求は認められるか、理由を示して検討しなさい。

(設例2)

事実1～3の後に、次の事実4があったとする。

4. Cが死亡し相続が開始したが、Cの妻は既に死亡しており、Cには他に子もいなかったため、BはCの唯一の相続人だった。

問(2)(配点:40点)

Aが、Bに対して代金と引換えに甲土地の引渡しと所有権移転登記を請求した場合、Aの請求は認められるか、理由を示して検討しなさい。

検討に際しては、Aの請求の根拠と考えられるものをすべて挙げ、それぞれに対するBの反論を踏まえたうえで、解答すること。

(設例3)

事実1とは異なり、本件売買契約を締結した時Bは未成年であったものとし、事実1の後に、事実5～8があったとする。

5. 本件売買契約を締結した当時、Cは、Dに対して多額の債務を負っており、Dからその弁済を迫られていた。そのため、Cは、甲土地の売却代金によってDに対する債務を弁済することを思い立ち、そのことだけを意図して、本件売買契約を締結した。

2021年度 同志社大学大学院 司法研究科

前期日程入学試験問題 法律科目試験

(民法)

---

6. しばらくして、AからCに対して売却代金が支払われ、それと引換えに、Cは甲土地をAに引き渡し、登記を移転した。そして、Cはこの売却代金で、自らがDに対して負う債務をただちに弁済した。
7. Aは、本件売買契約を締結した際、CがDに対して債務を負っていることも、売却代金をCの負う債務の弁済にあてるというCの意図も知らなかったし、知ることもできなかった。
8. その後、Cが死亡し相続が開始したが、Cの妻は本件売買契約当時既に死亡しており、Cには他に子もいなかったため、BはCの唯一の相続人だった。

問(3) (配点: 40点)

成年に達し甲土地がAに売却されていることに気づいたBが、Aに対して甲土地の返還と所有権移転登記の抹消を請求した場合、Bの請求は認められるか、理由を示して検討しなさい。